

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉演習Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	
2. 授業担当教員	長谷川 行雄・小金澤 嘉		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>精神保健福祉演習Ⅱは、ソーシャルワーク演習Ⅰにおいて、「ソーシャルワークの基礎」「ソーシャルワークの展開」を学んだ後に位置づけられる科目で、精神保健福祉演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと連続して学習するよう構成されている。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としている。</p> <p>精神保健福祉演習Ⅱは、精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む。)を活用し、精神保健及び精神障害者に関する法律、障害者基本法、また障害者総合支援法をはじめとする各種法制度の運用について実践的に学習する。また精神保健福祉援助の事例(集団に対する事例を含む。)を用いて、医療機関、障害福祉サービス事業や行政機関等、関連する専門職について実践的に学ぶ。さらに、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察する方法を学ぶ。</p>		
8. 学習目標	<p>精神保健福祉演習Ⅱが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <p>①精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。</p> <p>②精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。</p>		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>課題1. 事例を用いて障害者総合支援法の活用について説明する。</p> <p>課題2. 事例を用いて障害者雇用促進法の活用について説明する。</p> <p>課題3. 精神保健福祉士が関わる関係機関や職種の役割についてまとめ、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役として大切なことをまとめる。</p> <p>各課題について、A4用紙2枚にまとめること。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 一般社団法人日本ソーシャルワーク学校教育連携編集『精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワーク演習(精神保健福祉専門)』中央法規出版</p> <p>【参考書】 「はじめてのソーシャルワーク演習」編集委員会編『はじめてのソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房、2020.2</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>①授業で扱った諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用するための理解ができたか。</p> <p>②精神保健福祉士が関わる関係機関や他専門職についての理解ができたか。</p> <p>③本人を中心とした援助を展開するチームの連携について理解し、コーディネート役として必要なことについて理解ができたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 演習への取り組み 60%</p> <p>2. レポート課題1～3 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 <p>遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 精神保健福祉演習Ⅰの振り返りと精神保健福祉演習Ⅱ	事前学習	シラバスを確認し、精神保健福祉演習Ⅱの学習内容について確認する。

	学習目標	事後学習	精神保健福祉演習Ⅰでの学習を踏まえ、精神保健福祉演習Ⅱの自己の学習目標を明確にする。
第2回	精神保健福祉士の多様な職場におけるソーシャルワーク実践の理解	事前学習	教科書第3章序を熟読する
		事後学習	精神保健福祉士の多様な職場とそれぞれの職場での精神保健福祉士の役割をまとめる
第3回	精神科医療機関における事例①：家族支援、インテーク面接	事前学習	第3章事例1を読みわからない語句を調べておく
		事後学習	事例を通しての学びをまとめる
第4回	精神科医療機関における事例②：外国籍のクライアントへの支援	事前学習	第3章事例2を読みわからない語句を調べておく。日本における外国籍の方の生活実態について新聞報道などに目を通しておく。
		事後学習	事例を通しての学びをまとめる
第5回	精神科医療機関における事例③：精神科デイ・ケア、他機関連携による地域生活支援	事前学習	第3章事例3を読みわからない語句を調べておく。デイケアの役割を復習しておく。
		事後学習	事例を通しての学びをまとめる
第6回	精神科医療機関における事例④：精神科クリニック、依存症の方への支援	事前学習	第3章事例4を読みわからない語句を調べておく。依存症について調べておく。
		事後学習	事例を通しての学びをまとめる。
第7回	精神科医療機関における事例⑤：グループを活用した支援、家族支援	事前学習	第3章事例5を読みわからない語句を調べておく。グループダイナミクス、グループの展開過程について復習しておく。
		事後学習	事例を通しての学びをまとめる。
第8回	精神科医療機関における事例⑥：精神保健福祉士による災害時の支援	事前学習	第3章事例6を読みわからない語句を調べておく。災害時支援における精神保健福祉士の役割について調べておく。
		事後学習	事例からの学びをまとめる。
第9回	障害福祉サービス事業所における事例①：地域生活支援	事前学習	第3章事例7を読みわからない語句を調べておく。障害者総合支援法のサービス内容を復習しておく。
		事後学習	事例からの学びをまとめる。
第10回	障害福祉サービス事業所における事例②：就労支援	事前学習	第3章事例8を読みわからない語句を調べておく。障害者への就労支援について復習しておく。
		事後学習	事例からの学びをまとめる。
第11回	障害福祉サービス事業所における事例③：ピアサポーターの養成と活動支援	事前学習	第3章事例9を読みわからない語句を調べておく。ピアサポーターとは何か調べておく。
		事後学習	事例からの学びをまとめる。
第12回	障害福祉サービス事業所における事例④：アウトリーチ型の支援、ひきこもりの方への支援	事前学習	第3章事例11を読みわからない語句を調べておく。ひきこもりの実態を調べておく。
		事後学習	事例からの学びをまとめる。
第13回	障害福祉サービス事業所における事例⑤：地域移行支援	事前学習	第3章事例13を読みわからない語句を調べておく。
		事後学習	事例からの学びをまとめる
第14回	地域における支援（高齢者福祉施設）：多機関連携	事前学習	第3章事例12を読みわからない語句を調べておく。多機関連携のポイント、介護保険制度について復習しておく。
		事後学習	事例からの学びをまとめる。
第15回	まとめ	事前学習	授業で学んだことを振り返る
		事後学習	自分自身の今後の課題を書き出す